

● 草の根パートナー型

平成19年度第1回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	モンゴル
2. 事業名	雇用機会を創出するための住民参加型生活道路整備の技術移転事業
3. 事業の背景と必要性	モンゴルでは近年の社会情勢の変化にともない、遊牧民が遊牧生活をやめて都市近郊の「ゲル地区」に移住し、密集して生活している。ゲル地区では道路状態が悪いため、住民の生活は不衛生かつ不便である。また住民には雇用の機会がないため、彼らの所得水準は非常に低い。したがって、ゲル地区住民が抱える生活環境の問題を改善し、彼らの所得向上のため継続的に雇用機会が生まれる仕組み作りへの支援が必要である。本事業は、2006年12月までに実施した先行プロジェクトで残った課題を解決し、地域社会が一体となってゲル地区の問題に取り組むための支援プログラムである。
4. 事業の目的	ゲル地区の生活環境改善および雇用機会創出のため、住民参加により低コストで生活道路を整備するための手法をモンゴル側に移転する。
5. 対象地域	ウランバートル市内ゲル地区
6. 受益者層	モンゴルの行政関係者、道路技術者、ウランバートル市ゲル地区の住民
7. 活動及び期待される成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゲル地区の環境条件や住民の要望を正確に把握し、住民参加により低コスト生活道路を整備する。その成果として、ゲル地区のアクセス性が向上し、住民が抱える生活環境の問題が改善する。 2. 生活道路整備を実施する過程で、計画立案、施工計画、住民参加手法、維持管理などについて技術指導する。その成果として、生活道路整備事業の一連のノウハウを移転することができるようになる。 3. 生活道路整備を実施する過程で、「舗装マニュアル」の実践的活用法を指導する。また必要に応じてマニュアルの改訂を行う。その成果として、マニュアルを活用して工事現場で指導する人材を育成できるようになる。 4. 事業過程をまとめて継続事業への手引きを作成する。またセミナーによって事業の仕組みを教育する。その成果として、失業対策の一環で住民参加型生活道路整備を展開するための仕組みが理解される。
8. 実施期間	2007年12月～2010年12月（3年間）
9. 事業費総額	49,962千円（予定）
10. 事業の実施体制	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際建設技術協会 以下の2チームから構成される「モンゴル簡易舗装委員会」が主体となる。 <ul style="list-style-type: none"> ● 現地での技術指導および国内作業を行う「専門チーム」。 ● 専門チームの活動を国内から支援する「支援チーム」。 <p>上記に加え、日本道路協会内の舗装委員会が技術的な支援をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. モンゴル道路・運輸・観光省の道路局 道路局が主体となり委員会を組織する。委員会メンバーは道路局の他、財務省、ウランバートル市、モンゴル道路技術者連盟、大学、民間建設会社。
II. 実施団体の概要	
1. 団体名	社団法人 国際建設技術協会
2. 活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際協力のための調査・研究 2. 建設技術者への研修 3. その他の国際協力や国際交流活動
3. 対象国との関係、協力実績	草の根技術協力事業（草の根協力支援型）「バガヌール地区生活環境整備（生活道路の舗装）」を2004～2006年に実施したほか、この10年に渡り、モンゴルにおいて、道路補修計画に係るデータ収集・現況調査、都市環境整備計画に係る関係機関との検討、道路建設機械技術者育成プロジェクトに係る調査を実施した実績を持つ。